

# 「おんなブランド」構築へ

## 恩納村 Onna Village



沖縄初の国指定史跡「国頭方西海道」や恩納岳を望む「恩納松下の歌碑」など、村内の史跡・琉歌を観光資源に活用

団体からノウハウを学び多くの情報を集約し、「ナビーロードモニターツアー」を企画。ナビーの生家跡や村内の歌碑、国指定史跡の歴史の道を巡ります。その他、琉歌イベントや琉歌資料館の整備も行う予定です。

NPO団体の名城一幸さんは「地元の人に愛されるものが地域ブランドにつながると思います。まずは、村内から沖縄全体へ琉歌の素晴らしさを広めたい」と熱く語ります。琉歌会と協力し、琉歌大賞の運営や琉歌の普及・啓蒙、観光商品開発に携わっています。

「今後の課題は、恩納村の原風景を守るために村民の生活の場と観光の住み分けや観光客受け入れの上限を決めるなど、ルールやガイドライン作りが重要」と平田さんは考えます。村商工観光課名城淳一課長も「地域おこしとあわせて村を緑でつなぐ、緑の回廊事業」を展開中として、環境保全の重要性を訴えます。

### 特産品開発と観光開発の二本立て 冬場の集客をめざす「琉歌の里おんな」の地域おこし

豊かな農漁業資源を生かし「おんなブランド」構築へ

エメラルドグリーン海が広がる本島西海岸沿いに位置する恩納村は、年間約二百万人の観光客が訪れる県内有数のリゾート地。女流歌人「恩納ナビー」のふるさととしても



パッションフルーツやモズク、フクギを用い、恩納村にしかない新たな特産品を開発

知られています。地域資源も豊富で、県の拠点産地に指定されるパッションフルーツや海ぶどうをはじめ、熱帯果樹や花卉園芸、モズクの養殖も盛んな地域です。

恩納村に訪れる観光客のほとんどがマリリゾートを目的に訪れるが、冬になると客足が落ち込みます。そこで恩納村では、冬場の集客を目的とした新たな特産品開発と「琉歌の里おんな」で、地域おこしに挑戦しています。

恩納村商工会事務局長の平田克裕さんは、「昨年からの特産品開発に取り組んでいます。パッションフルーツを使ったドレッシングやジャム、モズクを使ったまんじゅうや村木のフクギを用いた染物など、約二十種を試作しました」と話します。

今年は、国や県の補助事業を活用

「おんなブランド」を守り支える多くの人たち

「恩納のパッションフルーツは安心安全な無農薬栽培にこだわり、他との差別化を図っています」と胸を張る農家の大城一彦さん。安全な材料の安定供給がジュースやドレッシングなどの加工品を支えています。

ちゆらさ工房の仲西美佐子さんは、「フクギ染めが特産品になれば、恩納村の原風景であるフクギ並木も残る。地域と一緒に、幸せの黄色」を次代へ伝えていけたら」と子供たちの未来を見つめます。

「以前は身近すぎて地元の素晴らしき素材や海のおいしさに気づけなかったと話す村漁協の眞亮さんはモズクコロッケの開発を担当。サンゴが元気な海はモズクの成長も早いことを知り、自然の大切さを実感。サンゴ保全にも積極的に取り組んでいます。

「、おいしかった、もつとこうして欲しい」というお客さまの声にも耳を傾けながら、ここにしかないもの



農業を営む大城さん

を揃えたい」と語るのは、特産品のアンテナショップの役割を担う「おんなの駅」なかゆい市場の店長の与儀繁一さん。

「地域が一丸となり、村全体が潤う地域ブランドが目標。みんながハッピーにならなければ続かない」。平田さんの言葉に全員がうなずく団結力がそこにありました。



「おんなの駅 なかゆい市場」与儀店長

「恩納村に学ぶ！」  
元気プロジェクトの開発ヒント

- ・中小企業庁の「小規模事業者新事業全国展開支援事業」の補助を活用
- ・恩納村にしかないもので特産品をしっかりと差別化
- ・お客さまの生の声に耳を傾け、改善に生かす
- ・モノづくりをする人たちの元気がみんなに伝染し、「村全体で豊かに」「みんながハッピー」というプラス思考で取り組む



恩納村商工会  
☎098-966-8258  
URL <http://www.onnanavi.jp>

し、引き続き特産品の開発と観光開発に着手しています。村商工会や役場、J Aや漁協、NPO団体やリゾートホテルなどで構成された二つの委員会を設立し、冬から春先にかけての観光振興を目的に、地域の観光資源である「恩納ナビー」や「琉歌」をテーマにした地域ブランドづくりが行われています。

王朝文化が薫る琉歌や史跡を観光資源に

「平成二年より琉歌大賞を開催している恩納村は、「琉歌の里」として団塊世代の観光客をターゲットに歌碑巡りや歴史散策ツアーを開催しています」と話すのは、村商工会経営指導員の比嘉秀仁さん。村文化財案内人「道の会」や村琉歌会などの地域



「おんなブランド」と「琉歌の里おんな」地域イメージブランド構築に携わるメンバー

## 編集後記

シルバーウィークに家族で東京ディズニーランドへ遊びに行ったのですが、沖縄に帰ってきてすぐ新型インフルエンザ発症。どうやら人混みの多い東京でウィルスをもたらしてきたようです(汗)。それからの1週間は高熱と体中の激しい痛み、食欲の減退に苦しまされました。けど、思わぬ副産物として5キロ痩せたのはラッキー？ (tako)

沖縄の台所には必ずある「人参シリシリ器」。実は珍しい台所用品のようです。県外に移住した友人は、「人参シリシリ器」を求め何件ものお店を探し回っても見つからず、結局沖縄の実家から取り寄せたそう。調べて見ると「人参シリシリ器」は新潟で製造され、100%沖縄に卸しているため県外では流通していないようです。ご当地土産に良いかもしれません。(momo)

## アンケート

「美ら島沖縄」のご感想をお聞かせください。  
パソコンはこちら  
<http://www.pref.okinawa.jp/churahome/>



沖縄県広報誌  
平成21年11月1日発行第33巻11号通巻410号

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2  
TEL: 098-866-2020

●表紙 写真・島袋常貴 / 村木のフクギを使った染物を開発(恩納村)

# 美ら島沖縄